

平成27年度 種なしぶどう病害虫防除暦

J A 中野市営農センター
J A 中野市ぶどう部会



* 耕種的防除・薬剤散布をあわせた総合防除に努め、年間を通したべと病・晩腐病対策を行なう。 * 散布量・散布間隔を厳守し、降雨前に散布する。

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ 当り)	使用時期	使用回数	散布量(ℓ)	対象病害虫(発生病害虫)	注意事項
／	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	地域散布 展着剤 ラビキラー乳剤 20mℓ 500mℓ	発芽前 (休眠期)	2回	300	ブドウトラミキリ (ブドウカガバ)	①トラカミキリ、ブドウスカシバの発生がある場合は散布する。 ②散布が遅れると薬害が出るので、発芽前に散布する。 ③ラビキラー乳剤は訪花昆虫に影響があるので、散布は4月上旬とする。
／	4月中下旬 (発芽直前)	①展着剤 ベフラン液剤 25 20mℓ 400mℓ	休眠期	1回	300	(枝膨病) 晩腐病 褐斑病 黒とう病	①晩腐病の発生する園は、ベフラン液剤 25 に代えてベンレート水和剤 200 倍(休眠期、1 回)を散布する。
／	5月上旬 (発芽直後)	品種散布(シャインマスカット) 展着剤 モスピラン顆粒水溶剤 10mℓ 50g	収穫 14 日前	3回	300	カイガラムシ類 アザミウマ類 ツマグロオカスカバ	①訪花昆虫対策を講じ、散布適期を逃がさないように散布する。 ②シャインマスカット、ロザリオビアンコ混植園は必ず散布する。
／	展葉 3・4 枚	特別散布 展着剤 キノンドー水和剤 80 ダイアジノン水和剤 34 10mℓ 83g 100g	収穫 45 日前 収穫 30 日前	4回 2回	300	べと病 黒とう病 クワコカイガラムシ ミドリヒメヨコバイ (カスカバ類)	①連続した降雨が予想される場合は、特別散布を実施する。 ②昨年べと病の発生した園は必ず散布する。 ③シャインマスカット、ロザリオビアンコ混植園は必ず散布する。 ④キノンドー水和剤 80 の汚れが心配な園は、キノンドーに代えてフェイバリル水和剤 2,000 倍(収穫 30 日前まで、2 回)を散布してもよい。
／	5月中旬 展葉 6 枚頃	[今回以降の防除は 10 日間隔を基本とする] ②展着剤 アリエッティ C 水和剤 10mℓ 125g	収穫 45 日前	2回	300	(晩腐病) べと病 黒とう病 灰色かび病	①アリエッティ C 水和剤の成分とオースサイド水和剤 80 は同一成分のため使用回数に注意する(合計 2 回まで) ②農家が在庫がある場合はアリエッティ C に代えてキノンドー水和剤 80 1200 倍(収穫 45 日前まで 4 回)を使用してもよい。ただしハウスビニールなどに汚れが生じるので注意する。
／	5月下旬 展葉 9 枚頃	③展着剤 ドーシャスフロアブル 10mℓ 50mℓ	収穫 60 日前	3回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	
／	6月初旬 展葉 11 枚頃 満開 14 日前	④展着剤 ストマイ液剤 20 10mℓ 100mℓ	満開 14 日前～ 開花始期まで	1回	300	無種子化	①種なしぶどう栽培園は必ず散布する ②花穂にたっぷり当たるように散布する ③有核ぶどうには、絶対飛散しないよう散布する
／	6月上旬 展葉 11 枚頃	展着剤 フラスター液剤 10mℓ 100mℓ	展葉 7～11 枚時 (開花始期まで)	1回	300	着粒増加 新梢伸長抑制	①樹勢の強い園、前年度花振り発生園は散布する ②フラスター液剤の濃度が高いと着粒密度が高くなるので注意する。 ③2 倍体欧州系品種は 1,500 倍～2,000 倍で使用する。
／	6月上旬 開花 3 日前	⑤展着剤 スイッチ顆粒水和剤 オーソサイド水和剤 80 オルトラン水和剤 10mℓ 33g 125g 66g	収穫 30 日前 収穫 45 日前 収穫 60 日前	2回 2回 1回	400	晩腐病	①オルトラン水和剤は他作物への登録が少ないため飛散しないように注意する。 ②オーソサイド水和剤 80 とアリエッティ C 水和剤の成分は同一成分のため使用回数に注意する(合計 2 回まで)
／	前回から 10 日以内 (落花直後)	⑥コテツフロアブル オンリーワンフロアブル ジマンダイセン水和剤 50mℓ 50mℓ 100g	収穫 14 日前 収穫前日 収穫 45 日前	2回 3回 2回	400	べと病 灰色かび病 褐斑病	①ジマンダイセン・ベンゾブ・リドミルは同一成分のため使用回数に注意する。 (合計 2 回まで)
／	前回から 10 日以内 (落花 12 日)	[雨よけ栽培 袋かけ前最終防除] ⑦フェニックスフロアブル ※ペンコゼブフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 25mℓ 100mℓ 10g	収穫 14 日前 ※収穫 60 日前 収穫 21 日前	2回 2回 2回	400	黒とう病 チャノキアザミウマ (スリップス類) フタテンヒメヨコバイ (ナミハダニ類) (クビアカスカシバ)	※ペンコゼブ F の登録内容は露地栽培では収穫 60 日前まで、施設栽培では開花前までの登録となっているため、雨よけ栽培ではペンコゼブ F に代えてコサイド DF2,500 倍(収穫 21 日前まで、3 回)を散布する。 ①農薬汚れ・果粉溶脱の心配があるため散布時期を徹底する。 ②マンゼブの成分を含む農薬の使用回数に注意。(上段注意事項参照) ③農家が在庫がある場合は、ペンコゼブフロアブルに代えて、リドミルゴールド MZ1,000 倍(収穫 45 日前まで、2 回)を使用してもよい。 ④主幹害虫発生園は主幹、主枝にたっぷり散布する。
／	前回から 10 日以内 (落花 17～20 日)	特別散布(露地栽培のみ) ホライズンドライフロアブル 40g	収穫 21 日前	3回	400		①袋かけ前散布の際は果粉溶脱に注意し散布する。 ②クビアカスカシバ発生園はサカサマフロアブル 10 5000 倍(収穫前日まで、3 回)を主幹、主枝にもたっぷり散布する
／	7月中旬 (袋掛直後)	⑧ムッシュボルドー DF ディアナWDG K.K ステッカー(展着剤) 200g 10g 33mℓ	— 収穫前日 —	— 2回 —	400	べと病 さび病 ハスモンヨトウ チャノキアザミウマ	①ハダニ類(サビダニ)の発生園は、ピラニカ水和剤 2,000 倍(収穫 30 日前まで、1 回)を散布する。 ②コガネムシ成虫類発生園はスミチオン水和剤 40 1,000 倍(収穫 30 日前まで、2 回)を使用してもよい。ただし、収穫前規制に注意する。 ③K.K ステッカーを投入する際はよく攪拌しながら最後に投入する。
／	7月下旬 (前回から 10 日以内)	⑨IC ボルドー66D テルスター水和剤 2.5kg 100g	— 収穫 14 日前	— 3回	400	べと病 さび病 晩腐病 チャノキアザミウマ	①IC ボルドー66D に代えて 4-4 式ボルドー、コサイド 3000 2,000 倍、ムッシュボルドー DF 500 倍を使用してもよい。 (薬害の心配な園はクレフノン加用) ②ボルドー液は、桃・プラム・梨等に薬害が発生するので、使用する場合は隣接園に注意する。 ③べと病発生園は、IC ボルドーに代えて下記薬剤を使用する。 ・ライメイフロアブル 4,000 倍(収穫 14 日前まで、3 回) ・ランマンフロアブル 2,000 倍(収穫 14 日前まで、3 回) ・レーバスフロアブル 2,000 倍(収穫 7 日前まで、3 回) ④チャノキアザミウマ(スリップス) アルパリン顆粒水溶剤 2,000 倍(収穫前日まで、3 回)を散布する。ダニ発生園はアデントフロアブル 2,000 倍(収穫前日まで、4 回)を加用散布する。(散布直前混用) ⑤アメリカシロヒトリ発生園はアディオン水和剤 2,000 倍(収穫 7 日前まで 5 回)を加用散布する。(散布直前混用)
／	8月上中旬 (前回から 10 日以内)	⑩IC ボルドー66D 2.5kg	—	—	400	べと病 さび病 晩腐病	
／	8月中下旬 (前回から 10 日以内)	⑪IC ボルドー66D 2.5kg	—	—	400		
／	収穫終了後	晩腐病・べと病多発園 展着剤 IC ボルドー66D 10mℓ 2.5kg	—	—	400		①病原菌は落葉内で越冬するので、集めて土中に埋めるなどの処理をする。 ②根頭がんしゅ病の発生防止のため、ワラ巻きによる防寒を実施する。 ③晩腐病の耕種的防除として、二番成り・巻きひげ・果梗痕をきれいに取り除き、中耕を実施する。あわせて園内整備をし栽培環境を整える。

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう